

2022年9月14日 於ベルリン日独センター パネルトーク

「フンボルト・フォーラムの茶室と金沢がつなぐ茶の湯～建築～工芸」

登壇者 略歴

<p>奈良宗久、裏千家今日庵業躰、工芸作家</p> <p>加賀前田家ゆかりの窯元の次男として1969年金沢で生まれる。工芸作家として制作活動続ける一方で、1995年より裏千家今日庵に入庵し茶道の道へ進む。宗家直下の伝承者として認められ、業躰（宗家直下の指導者）として国内外の茶道普及に努める。金沢で茶道教場「好古庵」を主宰 (https://kokoan-kanazawa.com/)。石川県文化奨励賞、金沢市文化活動賞、北國芸術賞など受賞多数。工芸美術品の収蔵先にベルリンアジア美術館、裏千家今日庵、草月美術館など。</p>	
<p>浦淳、建築家</p> <p>1966年金沢市生まれ。大阪で建設会社に勤務後、1993年（株）浦建築研究所入社。2006年同社代表取締役社長に就任すると共に、まちづくりのNPO法人趣都金澤を設立。2013年には文化事業会社、（株）ノエチカを設立。建築家、まちづくり・文化事業プランナーとして、北陸の建築・文化の発信を目指している。主な作品に、金沢港クルーズターミナル、ダッカ高速輸送鉄道1号線開発プロジェクト、能登演劇堂、ベルリンゆらぎの茶室（忘機庵）、活動にGO FOR KOGEIプロデューサーなど。</p>	
<p>中村卓夫、陶芸家</p> <p>金沢市で三代続く窯屋の次男に生まれる。金沢風「琳派」に新たな解釈を加えた独自の作品シリーズ「ぎりぎり器」（1991年）を発表以来進化を続け、その作品の多くは茶褐色に焼き締められた土肌を九谷焼風色絵が琳派風に彩る。「第一回金沢・世界工芸トリエンナーレ」金沢21世紀美術館（2010年）、「Designing Nature: The Rinpa Aesthetic in Japanese Art」NYメトロポリタン美術館（2012年）、「革新の工芸——“伝統と前衛”、そして現代」東京国立近代美術館工芸館（2017年）などのほか、ロンドン、東京、マースリヒトなどのアートフェアに出展。作品の主な収蔵先に金沢21世紀美術館、東京国立近代美術館、NYメトロポリタン美術館など。</p>	 <p>© SHIRATORI Shintarō</p>
<p>坂井直樹、金属造形作家 (Dr.)</p> <p>1973年群馬県生まれ。東京藝術大学大学院博士後期課程鍛金研究室修了、博士学位取得。金沢卯辰山工芸工房にて研修後、同工房の専門員を務める。2019年より東北芸術工科大学美術科工芸コース准教授に就任し、金沢と山形を往き来しながら金沢を制作の拠点とし活動中。受賞歴に日本伝統工芸金工展朝日新聞社賞（2017年）、石川の伝統工芸展第60回記念特別賞（2019年）、金沢文化活動賞（2021年）など多数。</p>	